

自立をふまえて（どの子ども共に生き、共に育つ）

～ 一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方 ～

I 主題設定の理由

今年度、東山梨地区の特別支援学級は58学級となった。一学級の在籍状況は学校規模に関わらず一人学級から多学年大人数と様々であり、障害種別も多様である。通級指導教室も今年度は山梨市の中学校に設置がされ、4教室となった。通常学級においても支援や配慮を必要とする子どもが多くおり、一人一人の子どもの実態は様々である。このため、支援学級・通級指導教室・通常学級の担任・担当が抱える課題は多様化しており、子どもたち一人一人の障害の状況や発達段階、その特性に合わせた支援・指導は、共通した研究課題である。

また、今年度の春季教育研究集会において研究テーマは「どの子ども共に生き、共に育つ」副テーマは「ありのままを認め、『共に生き、共に育つ』ことをめざして」に決定した。具体的な研究内容としては、

- ◎各地区で一人一実践など、全員が主体的に研究に参加し、組織研究にあたる。
- ◎レポート内に子どもたちの変容を記載し、成果と課題を明らかにする。
- ◎具体的な内容 [インクルーシブ教育を意識した実践]

などの内容を研究していくことが確認された。秋季教育研究集会では子供たちの変容から、成果と課題を明らかにすることとなった。

そこで、本年度も授業実践・学習会・情報交換などを通して、児童生徒の理解と支援方法などを模索し、児童生徒一人ひとりの実態に合わせ、自立をめざした支援内容、支援の方法に迫るべく本主題を設定した。

II 研究の内容

1 講師を招いて学習会を行い、それぞれの学習内容について理解を深めた。

(1) 8月 6日 「ユニバーサル・デザインを意識した授業づくり」

講師 山梨市立日下部小学校 教頭 岡 輝彦先生

(2) 8月28日 「特別支援学級の授業づくり」 ～指導案のつくり方～

講師 山梨県総合教育センター相談支援部 指導主事 中野 恵子先生

2 小部会ごと研究テーマを設定し、情報交換や実践発表を行った。また、それぞれの部会ごとに研究授業を行った。

(1) 1部会

ア 研究テーマ 「障害理解・合理的配慮」

イ 研究授業 自立活動 「何て言おうかな どう言おうかなあ」

～話し方について考えよう～

授業者 平塚すみり 教諭 (日川小)

指導・助言者 岡 正人 教頭先生 (菱山症)

(2) 2部会

ア 研究テーマ 「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり」

イ 研究授業 算数科 「三角形のなかまを調べよう」

授業者 武井 有衣 教諭 (笛川小)

指導・助言者 岡 輝彦 教頭先生 (日下部小)

3 成果と課題について話し合い、次年度に向けて見直しをもった。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 研究テーマを中心に、一人ひとりの実態をふまえた支援の在り方について、学習会や実践報告などを通して深めることができた。
- (2) 小部会ごとに全員の実践を報告しあった。各校の実践を持ち帰り、活用することができた。
- (3) 2人の助言者の先生方に小部会の研究に入ってもらえたことができたため、毎回の実践報告や指導案検討、研究授業などで指導・助言を頂くことができ、毎回の部会研究がより有意義なものとなった。
- (4) ユニバーサルデザインの考え方をもとに通常の学級で授業研究ができたことは大きな成果であった。今後も通常の学級における支援・指導の在り方を継続して研究していけるとよい。

2 課題

- (1) 2部会に分かれて行った実践報告や研究授業等は資料で環流を図ったが、意見や質問などを交わせる機会が欲しかった。限られた研究会の中で、どのように計画を立てるかが課題である。
- (2) 部会ごとに研究授業を行ったが、他の部会の研究授業をみる機会が欲しかった。
- (3) 年度始めに小部会の編成に時間がとられてしまう。部会編成がもう少し効率よくできるとよい。

(部長 岡 京子)